



2月17日、会場となった岡崎市情報ネットワークセンターに用意された200席が満席となった午後1時半、大川博美実行委員長（本会会長）の開会挨拶で、スマートバレー・フォーラム in 岡崎は始まりました。

まず、シリコンバレー地区の、驚異的な発展に重要な役割を果たした組織 JV：SVN <ジョイントベンチャー：シリコンバレー・ネットワーク>の設立に参加し、事務局長を務めたダグ・ヘントン氏が基調講演をしました。



「発展の要因は、経済的なコミュニティづくりを目指すこと。また地域社会の問題にも理解を示し、その中で産業の問題も解決しようとする市民起業家の存在が必要。最も重要な鍵は、企業・自治体・大学・コミュニティが共同作業するジョイントベンチャー方式の組織で、岡崎もそうした挑戦をしていただきたい。」と語りました。



—活性化成功の5原則—

1. 地域は責任を負わなければならない。自らの力で考え進める。
2. 産業クラスターが地域の活動を動かす。地域の資源の有効活用。
3. 共同作業が産業と地域社会を結び付ける。関係者の足並みが揃うこと。
4. 継続的改善が基本精神である。成功持続は継続的努力。
5. 市民起業家が仲介役。関係者は技能やネットワークを提供しあう。

引き続き、郵政省の吉崎正弘調査官が、岡崎リサーチセンターと東京レポートセンターをB-ISDNで結んだテレビ会議システムに出演して、岡崎をフィールドとした実験の意義を紹介されました。

またパネルディスカッションでは、中根鎮夫岡崎市長、大川博美岡崎商工会議所会頭、服部良男21世紀を創る会・岡崎理事、水野健司愛知産業大学副学長が、岡崎の情報化と地域振興について発言しました。これに対し、ヘントン氏からボトムアップ型の団体を作り、パイロットプロジェクトを決め、他地域との協力体制を図って欲しい、とのアドバイスがありました。

...パネラーの発言...

五感にふれる情報 / 適正な単位をもった行政圏域（中根市長）
 国際的かつローカルな情報交流 / 業種転換のチャンス（大川会頭）
 全ての仕事をデジタル化 / 産官学市民による組織づくり（服部理事）
 学生が情報化の主役の一つ / ビジネスインフラとしての大学（水野学長）